

令和5年度

学島小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① ICT 活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業展開の工夫
- ② ノートや端末等を活用して、自主的に取り組もうとする「家庭学習」の習慣化

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭 上岡 真依	校長 河野 修二 ・ 教頭 豊島 由美子
	教務 重本 英昭 ・ 研修主任 吉田 和佳子
	低・中・高学年代表教諭

校長

河野 修二

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いている児童は多い。 ●学力の二極化が見られ、読書や日常生活の経験差から、一部の児童には語彙力や読解力、情報活用能力に課題がある。	・読書に親しみ、言語感覚を豊かにし、自分で情報を読み取り、考えを整理したり活用したりすることができる。 ・ホワイトボードや端末等を活用し、対話を通して自分の考えを深めたり、知識を相互に関連付けて、適切な情報を選択することができる。	・図書館との協力連携や集会活動、家庭読書の日等の取組を通して、読書に親しむ機会を多くとる。 ・こども新聞を活用し、多様な情報を読み取る機会を設ける。 ・端末の共有機能等を使って、自分の思いを伝え合えるようにする。	・漢字や計算等のドリル的な学習に十分に取組むことで、基礎的基本的な知識技能を確実に身に付けられるようにする。	・読書に親しみ、言語感覚を豊かにしつつあるが、読み取った情報を整理したり活用したりするには至っていない。 ・ホワイトボードや端末を活用し、自分の考えをまとめる力は付いてきたが、対話を通して考えを深めることには課題がある。	・学習規律を徹底し、基礎的・基本的知識・技能の向上を図る。 ・プリントや端末のドリル機能を活用し、早く正確に読み書き計算ができるようにする。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○積極的に自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかり聞いたりすることができる児童は多い。 ●自分で学習の見通しをもつことや、根拠や理由を明確にして自分の思いや考えを表現することに課題がある。	・自分の思いや考えを相手にわかりやすく表現したり、相手の意図を捉えながら聞いたりし、主体的に対話することができる。 ・課題解決に向けて、互いの考えや意見を整理し、根拠や理由を明確にしながらか自分の意見を表現することができる。	・話し方・聞き方や話型等を活用し、小グループでの意見交換等の学習場面を多く設定し、協働的に学び合う活動を増やす。 ・「言葉の宝箱」やホワイトボードや端末、思考ツール等を効果的に活用し、互いの考えをまとめたり表現したりする機会を増やす。	・小グループでの話し合いでは、役割(司会・発表者・記録など)を決めて、協働的に学び合うことができるようにする。 ・「言葉の宝箱」などの活用場面を具体的に設定し、互いの考えをまとめたり表現したりする機会を増やす。	・授業や行事などの発言の場面で、自分の考えがうまく伝わるように「言葉の宝箱」の言葉を使って発表できる児童が増えてきている。 ・課題解決に向けて、自分の考えは表現できるようになってきたが、互いの意見を整理したり、比べたりすることは難しい児童もいる。	・引き続き「言葉の宝箱」を使って語彙力や表現力を高めるために、言語活動の充実ができるようにする。 ・互いの考えや意見を整理、比較できるような発問などの手立てを工夫し、対話や協働的に学び合う活動を今後取り入れる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中の課題や宿題など、与えられた課題に対してまじめに取り組むことのできる児童が多い。 ●自分の学習課題を把握し、計画的・効果的に家庭学習に取り組むことには課題がある。	・自分の学習状況や興味関心に応じた課題を見つけ、計画的に学習することができる。 ・ノートや端末等、学習内容に応じたツールを活用して、自主的に学習に取り組むことができる。	・授業や家庭学習において端末を計画的に活用する機会を設定し、個別最適な学びを実現できるようにする。 ・授業で使ったプリントやノート等を振り返り、自分の課題を把握し、自主学習に取り組んで、「できる」達成感を味わうことができるようにする。	・授業や家庭学習においてノートや端末等を計画的に活用する機会を設定し、個別最適な学びを実現できるようにする。 ・授業で使ったプリントやノート等を振り返り、自分の課題を把握し、自主学習に取り組んで、「できる」達成感を味わうことができるようにする。	・単元のまとめに向けて自分の学習状況から課題を見つけ、学習する姿が見られた。 ・ノートや授業で使ったプリント等を振り返り、自主的に学習に取り組む児童が多かった。	・単元のまとめの時だけでなく、普段からその時その時の自分に適した課題を見つけ、取り組めるようにする。 ・授業内容で理解が不十分な学習課題を児童自身が把握し、家庭学習の中でそれを補えるように支援する。

令和5年度 学力向上ロードマップ



